

議 事 録

会議名	平成27年度 第1回寒川町青少年問題協議会		
日 時	平成27年7月2日（木）午後2時00分より	開催形態	公 開
場 所	町民センター 3階 講義室		
出席者	<p>委 員：木村会長、大澤副会長、吉田委員、齋藤委員、寺本委員、宇條委員、生活安全課長（代理出席）、西海委員、前田委員、下里委員、金子委員、加藤委員、大矢委員、坂元委員、磯川委員</p> <p>事務局：高橋健康子ども部長、天野子ども青少年課長、白井指導主事、青木副主幹、大鷲主査</p> <p>欠席者：木内副会長、山口委員、平本委員、若林委員、古山委員、豊田委員</p>		
1. 開会	大澤副会長		
2. 任命状交付	会長		
3. 会長あいさつ	会長		
4. 委員紹介	各自自己紹介		
	<p>司会 子ども青少年課長 事務局職員紹介・資料確認</p> <p>この会議は、「寒川町審議会等の会議の公開に関する規則」第2条に該当する会議となりますので、同規則第8条に従い、議事録を作成することになっています。議事録の作成にあたっては、要点筆記で行うことをご了解いただくとともに、議事録承認委員の承認をいただき、確定、公表となりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>議事録承認委員の指名でございます。本来は委員の皆さんにお願いするところですが、この会議の開催が本年度も2回の予定でございますことや、子ども青少年課にお越しいただく機会の多いことから、青少年指導員連絡協議会の大矢かおる委員と寒川町青少年環境浄化推進協議会の坂元誠一委員にお願いしたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。</p> <p>異議なく承認された。</p>		

<p>5 議題 (1) 情報 交換</p>	
<p>会長</p>	<p>開催通知にも添え書きでお願いしてありましたが、委員の皆様より積極的な情報交換をお願いします。</p>
<p>磯川委員</p>	<p>幼稚園の関係で言いますと、27年度より子ども子育て新制度になり幼稚園の進む方向が変わり、今まで通りの幼稚園、幼稚園方の認定こども園、幼保連携型の認定こども園、幼稚園のまま施設方給付を受ける施設幼稚園型の4つの分類に分かれております。町の幼稚園は、施設型給付の園が1園、今まで通りが2園です。国の政策もはっきりしてない部分もあり、どれがいいのかはまだはっきり分かっておりません。1年みて方向性を考えていこうと思います。認定こども園にすれば、保育園の代わりになり待機児童が減るとというのが国の考えです。将来どの方向に向かっていくかということで、幼稚園は、今まで通りの幼稚園、認定こども園、施設型給付の園を選ばなければなりません。県や町からどの方向性にするかアンケートがきておりますがどれにすれば良いか方向性が決められず検討中の幼稚園がほとんどです。</p> <p>子どもの事に関しますと、幼稚園ではほとんどありませんが、親の虐待、自分の子どもや連れ子の子どもに虐待するというのを最近よく聞いております。また、特別支援の子どもが増えてきております。このような問題を幼稚園や保育園で預かると人手がかかる。子ども1人や2人に1人保育士が必要となり、受けるところが少ない、このような状態でも子どもの将来を考え、不公平がないように地域の皆様に子育てが出来るようにしていただければいいと思っております。財政問題もあり難しいとは思いますが、周りを見ると助成を受けて一生懸命やっている幼稚園もあるので町としても参考にしていただき検討していただければと思います。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>子どもの泣き声や大人の叫び声が最近ありました。近所付き合いも希薄になる中、近所の人たちはこのようなときにどうすればいいか難しいことではないかと思えます。通報したのが分かってしまったら、自分も難しい状況に置かれてしまうと感じてしまう世の中になってしまったので、近所の見守り体制をどうやって強化していくのか、見つけた時点で対処出来る組織作りがあればと思います。</p> <p>また、最近危惧しているのがSNS。交流を広めるのを目的としていますので、登録すると自分の電話番号から知り合いだろうと思う人を勝手に検索します。自分の電話番号を知っている知り合いなら問題ないのですが、知り合いの知り合いまで「登録した人を知っていますか」と自分が知ら</p>

	<p>ない人にまで情報が拡散するシステムになっています。非公開にすれば問題ないのですが、SNSの危険性について子ども達がどこまで理解しているのか疑問です。あとプロフについて、若年性が目立っております。18歳未満はやってはいけないというサイトもありますが、最近よく耳にするラインは、プロフではないのですが日記のように書くことが出来るシステムになっており、誰でも見られるようになっていきます。ここに、普段どこで何をしているか、趣味趣向や部活は何部で何をしたと書くと、この子は何部で何時頃どこにいるなど行動が分かってしまいます。子ども達はそのような危険性を分らず情報を書き込んでいる。やや危険だと思う場面が最近ありましたので、注意啓発をしていかなければならないと思います。</p>
齋藤委員	<p>最近川崎での事件や凶悪犯罪が日本全国でニュースになっておりますが、寒川町では30年以上前、PTAや民生委員、環境浄化の関係でステカンの撤去、有害図書の販売規制や有害図書の自販機撤去など様々な活動のおかげで子どもに対する環境がすばらしくなった。このような活動により子どもの非行に関する話を最近全く聞かなくなったということで、町や教育委員会、地域の皆様と一体となってやってこられたことに感謝いたします。最近では、スマートホンの時代で人と人とのコミュニケーションがなくなってきている。隣にいる子にもスマホを利用して会話するなどコミュニケーションが少なくなっていることに危惧しております。学校、家庭、地域で育てると言いますが、学校が、家庭が、地域が問題と色々と言われますが、一番問題なのは原点となる家庭だと思います。寒川町は、第一日曜日に家族防災会議の日と定めて防災無線で放送していただいておりますが、その中で青少年の環境作りとして、「子どもと親が話し合う取り組みをしてはどうですか」というようなコミュニケーションの原点としての取り組みをしていただきたいと思っております。スキップを読むとたくさんの子どもの対する事業が載っております。子ども達に夢や体験を与える事業がたくさん載っておりますので、これも含めながらお願いしていきたいと思っております。健康スポーツ課では、元気プランを策定し、年代別のライフワークで健康について行っておりますが、幼少から18歳ぐらいまでのライフワーク的ななかで、こんな事やったなど親と子どもで活躍できるようなメニューを考えていただけたらと感じております。非行予防も含めての活用が大事になってくると感じております。</p>
寺本委員	<p>いじめについては、去年と数字的には大きく変わっておりません。内容的には仲間はずれが多いのですが、担任や家族に相談する状況が見られ、相談する環境にあるということが救いであります。不登校については、中</p>

学校は前年と大きく変わりませんが、小学校の増加が気になるところであります。小学校は、前年に比べ10件ほど増えており、6年生の不登校があると聞いております。理由としましては、無気力、情緒不安定が相変わらず多いのですが、家庭での要素が増えてきたことにより担任の先生が苦勞している。次にネットパトロールについてですが、昨年よりネットパトロールを開始しました。始めた頃は、個人のサイトが48件でしたが、3月には708件に増えております。ネット社会を思い知らされている状態です。その内205件が閲覧不可でした。内容としましては、顔写真や個人情報掲載、アカウントの乗っ取りもあり、わいせつな写真などがそのまま放置されている状況も見受けられます。情報モラルにつきましては、小・中学生とも今後も指導が必要であると考えます。現在、ネットパトロールにある事案については、中学生が中心であるが、実際には、小学生も顔写真や動画を掲載していると聞いております。最近では、スマホですぐに写真を撮り、ネット上にアップしてしまうので繰り返しの指導が必要です。ネットについての対策として、「夜9時以降のスマホなどの使用を控えましょう」というリーフレット、ポスターなどを各学校へ配布し、PTA連絡協議会の協力を得ながら家族でのルールを決めるよう訴えております。

今後の計画として、来年1月30日に茅ヶ崎警察署のご協力をいただき、「いじめを生まない私たちの学校づくり」をテーマとしまして、昨年に続き中学生の元気の出る集いを開催します。中学生が本音で語る部分がとても参考になると思いますので、ぜひ参加していただければと思います。

これからの課題で喫緊の対応として、インターネットの依存症の問題があると思います。パソコンやスマホでゲームにのめり込む若者が増えている。今流行っているのは簡単にできるゲームではなく、過激なオンラインゲームで、これらの規制が問われている。久里浜医療センターに来る依存症の外来患者の80%はゲーム依存症であると聞いております。症状として薬物乱用と同じような症状であると聞いております。ゲーム依存症について町としても、人格を破壊することに繋がっていきますので、ともに考えてはいけない課題であると考えます。

宇條委員

社会教育委員は、今年答申をまとめようとしており、「地域をつなぐ社会教育の在り方について」話し合いを進めております。その中で子ども達を見守るために、シニア層、時間に余裕のある世代が子ども達にフォローアップできたら、そのためにはどのような仕組み作りが必要か話し合っています。たとえば一之宮ですが、通学路をきれいに整えてくれる方がいます。いつも子供たちに挨拶をして、私たちもとてもありがたいと思ってお

	<p>ります。一人一人ができることを広がっていけばと思います、現在提言を作成中です。私が教師の時、給食費の滞納の対応がとても大変でした。最近の話題では「給食を食べさせない」と言ったら給食費を払ってくれたということがニュースになってましたが、お金を払わなくても食べられる、お金を払わなくても大丈夫などとネット上に書いてあり、保護者は公的なお金は払いたくない、でも遊ぶお金はたくさんある、そんな家庭環境は辛いと感じてしまいます。寒川町にはそんな家庭はないだろうと思っておりますが、時間のある世代がどれだけ子ども達を見守れるかということをお話し合っています。</p>
<p>茅ヶ崎警察 代理出席</p>	<p>2月から川崎、鶴見、当署でも死亡事故と少年による大きな事件が起きています。共通する背景に飲酒があります。どこかに大人が止められるサインがなかったのか、検証していかなければなりません。高校生による死亡事故については、お酒を提供したと思われるお店を捜査して、少年の調べもこれから始まっていきます。少年が日常的に飲酒をしていたのは紛れもない事実です。どうして日常的になっていったかは、これからの調べで明らかになっていくと思います。少年が飲酒をしていけないのは法律で決まっております。なぜかという原点に帰っていただき、肉体的、精神的に悪影響を与えるということで改めて社会で理解したうえで、少年の飲酒は許さないという気運の醸成が必要ではないかと考えています。</p> <p>児童虐待の認知件数が3年前から右肩上がりとなっております。3年前までは心理的虐待と肉体的虐待は半々でしたが、今は心理的虐待が肉体的虐待の倍近く占めている。内容を見てみますと、子どもの前で夫婦げんかをする。口論から始まって、取っ組み合いのけんかになる。それを見かねた子どもが110番をする。信じられませんが、非常に多い。子どもを健やかに育てる家庭が機能していない。子どもはどこなら健やかに育つことが出来るのか、家庭がダメなら関係機関やボランティアが行っていかなくてはならないと考えます。</p> <p>ネットに関しては、犯罪者にも被害者にもなる。子ども達はルールが分かっていない。やっていい、やってはいけないの線引きが分かっていないため、その線を越えると非行に走る。少年が犯罪者になってしまいます。実際の例であり、現在捜査しております。どのように使えばいいか、誰かが教えなければなりません。ルールの教育をカリキュラムに今後入れていかなくてはならないと考えます。県警本部、スクールサポーター、少年係などに要請があれば、サイバー、非行防止教室などを出向いて行きます。ぜひ活用していただきたいと思っております。</p>
<p>西海委員</p>	<p>湘南地域県政総合センターの取り組みについてお話しさせていただき</p>

	<p>ます。主に青少年を指導する方々の支援を行っております。昨年は、研修会や講演会を開かせていただき、今年度も同じように進めさせていただいております。青少年指導員研修会で6月13日に寒川総合体育館でレクゲームの指導法の研修を行いました。また、湘南地域青少年指導員連絡協議会をもうけてあります。年2回の開催で6月25日に1回目を開催いたしました。各市町の青少年指導員により活動報告を行いました。今後の予定といたしまして、11月28日に「繋がり症候群考える」をテーマに青少年指導員の講演会を行います。県の事業ですが、10月にベルマーレのホームゲームの時に街頭キャンペーンを行います。毎年神奈川県青少年指導員大会を開催しておりますが、地域の持ち回りとなっております。来年度は湘南地域が担当になります。日時等はすでに決まっております。平成28年11月27日藤沢市民会館で行う予定となっております。湘南地域の青少年指導員の協力をいただいて開催いたしますが、6月25日の湘南地域青少年指導員連絡協議会のあと、実行委員会を立ち上げまして、9月以降にテーマなどを決めながら進めていきますので、詳細が決まりしだい、いろいろな形で皆様にご報告していきたいと思っております。</p>
前田委員	<p>子ども達の遊ぶところが少なくなったことやSNSなどの関係で親が子どもの友人を把握できていない。昔は家の電話にかかっていたので友達の名前も把握できましたが今はなかなか出来ない状況で、また親も電話にはまってスマホの画面をずっと見ている。本来なら子どもを見る時間が自分の時間になっている家庭環境の中で、児童虐待が低年齢化になり、それが小学校中学校まで続きどこで支援していけばいいのか会議などで支援の方法を話し合っていますが、出来ていないのが現状です。そのような話があったときはすぐに対応したいのですが、お子さんは将来がありますので「あの家何かあったんだわ」など噂になるのも困りますので、専門機関に連絡し、専門機関の指導の下支援している状況です。</p>
下里委員	<p>昨年50周年を迎えました。50周年を記念いたしまして、昨年8月と今年6月にキャンプを行いました。内容を考えるとき普段体験できない事、日本の文化と自然をキーワードとして指導者間の話し合いの結果、日本最大級の黒部ダム、北アルプス、山と川と橋の調和の取れた上高地の散策を8月に行いました。50年間変わらず幼稚園から大人までが活動しています。50年前の最高年齢は40歳、今年は87歳になってしまいました。孫のような団員と黒部ダムの階段を一步一步登り、上高地をハイキングしたり、夜はみんなでゲームをし、温泉で裸のつきあいを行いました。</p>

金子校長	<p>楽しい3日間でした。団員に心に残ることがあれば最高です。今年6月は尾瀬をハイキングしました。「尾瀬は最高だ」「歌は本当だった」などの喜びの声を聞くと苦勞が吹き飛びます。子ども達に何が出来るか、感動と思い出を与えることが出来るのかなど指導者間で話し合っております。この思いや活動が子ども達に少しでも伝わり継続していくことが大切だと思います。</p> <p>小学校の取り組みとしまして、青少年の指導、育成の観点から2つの取り組みをお話しさせていただきます。今までの話を聞いていて、いじめ、不登校、虐待、インターネットなど全部学校に集約しているような気がします。1つ1つ聞きながら、あれについては、これをやっている、あれについてもこれをやっていると学校でもいろいろと行っていると改めて思いましたし、大変なことだと認識いたしました。</p> <p>身を守ることとして4点説明させていただきます。</p> <p>まず、身を守るでは、サイバー教室、携帯教室、インターネットに関わっており、外せない事業であるため各小学校で実施しています。県警のサイバー犯罪対策課にお願いしたり、最近ではNTTやKDDI、auなど民間の通信会社も相当力を入れていています。それらを活用しながら行っております。本校の場合は、去年は県警の方の教室を、今年4月の末にNTTの方を呼んで行いました。両方とも特徴があつて良かったです。本年行ったNTTなどは、具体的な事例を示されて、子ども達も引きこまれるような教室になったと思います。各校で行っております。2点目として薬物乱用教室は、継続的に行っており、小学生なので主にたばこ等を中心にお話ししていただく事が多いです。いじめ、性犯罪、金銭を取られるなど、喫煙を含め、薬物乱用から子どもを守るという視点で、茅ヶ崎保健福祉事務所の方にご協力をいただいております。3点目として、子どもを安心安全を見守る会議を受けて各小学校で安心安全を見守る推進会議を開催しております。この会議とても重要で、本日出席している方々にも参加いただいております。自治会や地域の老人会、民生児童委員、学童保育の方、地区交通安全協会、防犯アドバイザー、県警のサポーター、PTA、学校など地域で子どもを見守る活動となっております。登下校の安全だけでなく、地域で暮らしている時の安心安全を全て含めた話し合いをしており、具体的な提案、意見も数多く出ており、それを活かすという形で非常に大事な会議として年2回開催しております。だいたい1学期と3学期に行っており、大事な会議の1つとなっております。その中で、声かけの事案を出してみたり、メールの事も出してみたり、数限りない事が出ております。中心になっていく会議だと思います。4点目として防犯ブザーについては、日常的な点検、所持率を教育委員会に報告がございますので所持率、</p>
------	---

加藤委員	<p>音が出るかの点検、鳴らす訓練もしております。</p> <p>大きな2つ目として、こころを育むという事で簡単に申し上げますと各校で定めておりますいじめ防止基本方針、ホームページに載せてありますが、これに則って、いじめについてはそれぞれの組織を活用して行っております。道徳教室も大事にしております。</p> <p>最後に、地域との連携について事例を少しお話ししますと、一之宮学区で、今子ども会が少なくなり成立しないという状況の中で、子ども会もある中、一之宮西自治会を中心に「白梅の子ども会」で発足し、子どもを見守り育てるような活動をする組織が立ち上がったと聞いております。もう1つは、南小学校と寒川高校の連携で、寒川高校の演劇部が小学3年生に演劇を通して色々と教えて下さる。今回は、万引きをテーマに行ったようで、高校との連携により、子どものこころを育むということがありました。</p> <p>3校の中学校があり、個人的なお話になるかと思いますが、他の2校は違うところもあるかと思いますがお話しさせていただきます。小学校と重複するところはたくさんありますが、いじめ、不登校、虐待、ネットの問題、数が多い少ないは別として、学校の中で課題となっているのは事実です。年々子ども達のこころが固まってきているように感じます。ほっと出来る場所が減っているように感じます。その中で学校で出来ることと言ったら仲間達と学んだり、行事を楽しんだり、少しでも子ども達のこころを耕していきたいと考えているところですが、未熟な子ども達に社会は大きなものを求めていることにギャップを感じ、本来大人がやるべき事を子ども達が簡単にできてしまう。ネットなどはまさにその現れだと思えます。未熟な子ども達が世界中に繋がるのが一遍に出来てしまう。とても便利ですが、子どもの成長には全く合っていない。いろいろな歪みが子ども達に出てきていると思います。低年齢化と言われますが、刑法犯14.15歳と話がありましたが、まさに中学生であります、いろいろな矛盾があり逆に中学生がかわいそうと感じます。</p> <p>地域の繋がりについてお話しさせていただきます。学校だけで子どもが育てられるわけではありませんので、地域の方との繋がりは大変大事と思っております。学校説明会を保護者、地域の方々向けに開催しますが、保護者より地域の方々のが多く参加していただく事に感謝しております。入学式や卒業式、学校行事にもたくさん来ていただけます。私たちが出来ることは、地域の方々に見守っていただくために情報発信が大切だと思っております。小さな事ですが、学期に1回クリーン作戦というものを行っており、登校途中に生徒がゴミを拾ってきます。昨年初めて見たときは驚きました。本気で拾ってきますのですごいゴミの量が1日で集まります。そ</p>
------	--

の分地域の方々にも迷惑をかけていて、特に登下校の態度が悪い。特に下校時に道に広がって歩いて歩いている。考えてみますと2人、3人で帰るとき縦に並んで帰りません。話しながら帰るのもコミュニケーション場なのですが、3人並んで歩いてますと、後ろから来る車や自転車にとっては邪魔となり、私も生徒に「広がってますよ」注意すると「ごめんなさい」と、結果的には広がってしまうのですが、それがいいとはいえません。誰かが来たらずっと避ける判断も必要です。なかなか自分を客観視できないのが中学生、また、なかなか友達と別れられなく、どこかで固まって話していると「人の家の前で騒いでいる」とお叱りを受けることもあります。限度を教える必要はあると思いますが、子ども達が自由にコミュニケーションが取れる時間や場所が無くなってきているのが可哀想だとも思いますが、このような社会になっている以上、子ども達に指導していくのが学校の責務と感じております。

森委員

今お話がありました小学校・中学校と共通する部分がございますが健全育成としての取り組みとして、交通安全教育、薬物乱用防止、喫煙防止、携帯などネット関係を学年ごとに実施しております。ただ、その時は解ったと一過性で終わらせないために日常的に指導を重ねることが非常に重要と感じております。生徒の様子を見ていますと、いけないことと分かっているけどやってしまうというのは意志が弱いと言えればそれまでですが、周りに誘われると断りきれない、断ってしまうと人間関係が壊れてしまうなどが背景にあるように感じます。本校の生徒だけではなく現代の若者ですとか大人、我々も含めて日本社会が同じようなことだと感じております。

現在県立高校で取り組んでいる教育力向上推進事業がありまして、教育実践校として本校は支援教育に取り組んでおります。具体的には、相手の意見を丁寧に聞く、そのうえで自分の気持ちをしっかり伝える。闇雲に受け入れるだけでなく、時には断るコミュニケーションスキル向上を目指して自己肯定感あるいは自己有用感につなげていきたいと考えております。

先ほど紹介のありました取り組みについては、スクールサポーターよりお話しをいただきまして進めていますが、実施はしておりません。このような活動を通して、小学生に喜んでもらうことも大事ですが、生徒の達成感や自己有用感などを身につけてほしいと思い生徒に働きかけをしています。このことにより自信を付けさせ、地域の一員として自覚、将来、本校の卒業生は、地元に残っていることが多い状況ですので、卒業後も地域の活性化に繋がる人材の育成に努めていきたいと考えております。

最後に情報提供ですが、今年度からですが、県内の高校を10の地区に分け、各地区1名のスクールソーシャルワーカーを配置する事業を開始しました。この湘南・鎌倉地区は、本校が拠点となって週2回スクールソー

	<p>シャルワーカーがみえています。生徒の状況を見て学習の困難や学校生活の不適用というのは本人だけの問題ではなく、家庭問題や経済的な事も含めた問題に大きく関わっていることをいくつかの事例を見ていく中でつくづく感じております。関係の皆様にはこういった形でお力添えをいただいたり連携が大事になってくると思いますので今後ともよろしく願いいたします。</p>
大矢委員	<p>私たちは小学生と関わることが多いです。子どもまつりや体験学習のさつまいも作りなど子どもと関わるが多く問題になるようなことはありません。ジュニアリーダーズクラブがありまして、人数が少なく、最近では4年生からゲームや研修などを行い、ジュニアリーダーを増やそうと力を入れております。</p>
坂元委員	<p>毎年4月に広報誌を発行させていただいております。すでに1度や2度は目を通していただいていると思いますが、ここにいる各団体からも出向していただき、ご協力をいただいております。皆様のご協力により、会が活動できていますことを改めて感謝申し上げたいと思います。ありがとうございます。5月に総会を行いまして、委員が替わり、各部会で今年は何を行うかなど勉強中でございます。毎年、有害図書、てんとう虫ポストの回収や町内の学校の文化祭に参加させていただき、薬物乱用防止の啓発活動などをしております。また、産業まつりにも出店させていただいております。毎年視察研修で皆様と一緒に出かけまして、去年は、輸入品の中に薬物がないか検出する施設へ見学に行かせていただきまして、今年、裁判所に伺う予定です。薬物乱用で検挙された方の裁判で、どういう経緯で犯罪に染まってしまったのかなど細かいところまで裁判で明らかになっていきますので、人ごとだと思っていた薬物について、身近というかすぐそばにある、いつそうなってしまうか解らないという現実を見ていただくというのは、いいことだと考えています。文化祭などで子ども達にアンケートをお願いしておりますが、アンケートの内容につきましても少しずつ変更させていただき、子ども達の心情や心境などを少しでもつかめるようなアンケートにしたいと考え、部会の方で検討させていただいております。前回の会議で講演の案内をさせていただきまして、「現代の若者をどう理解し、どう支援するか」でご講演いただき、出席していただいた方もいらっしゃると思いますが、子どもの頃どういった家庭環境で育ったかということが重要で、思春期に様々な影響を及ぼしていくのだと感じました。講師の方も非行少年になった体験の話だったので、特に小さい子どもを持つ委員にはいい講演になったと考えています。今年も、勉強になることや子育ての手助けになるような講演を行いたいと考えております。</p>

会長	<p>今年もよろしくお願ひします。</p> <p>各団体、各委員のお考えの中で、青少年を取り巻く状況について、課題なり、問題定義がありました。皆様からお話をいただきました。個々の質問に対してご意見等ございましたら挙手をお願いいたします。</p>
茅ヶ崎警察 代理出席	サイバー教室は大変すばらしいと思ひました。対象は何年生から何年生でしょうか。
金子校長	5年生と6年生の高学年です。
茅ヶ崎警察 代理出席	年一回行っているのですか。
金子校長	最低一回は行っております。
会長	<p>前回は2月に行いまして、それから時間もたっており、状況も変わっていると思ひますが、今日のお話しに確認も含めてご意見等があったらお伺ひしたいのですが。</p> <p>それぞれ立場が異なっておりますが、ある意味共通のお話もありました。青少年を小中高生ととらえるか、もっと上まで見るかでお話も変わってきますが、環境の変化を見極めるのが大切だと思ひます。その環境の変化によって子ども達はどうなっているのか皆様の立場から現状、実情については、把握されているかと思ひます。その対応をどうしたらいいのか、先ほどからお話もありました家庭の在り方の問題もあるかと思ひますが、団体行動、クラブ活動など団体に属している子どもと、そうでない子ども、フリーな、スマホやパソコンなどを主体的に相手にして日々おこなっている子ども達、問題は、今友達が居ないというか、子ども達が友達を作る煩わしさより、相手は黙っている機械とかにどうしても子ども達が入り込んでしまう子ども達の実態や環境を見極めていき、避けては通れない道なので、正しい取り組みはどういったものなのか一義的には出ないと思ひますが、地域活動、自治会活動でいかに子ども達を巻き込むか、遊びかもしれませんしイベントかもしれません、地域の子ども達が自分の親より年上の方達との交流の場を作っている自治会もあります。そこで、地域の方との話す機会もありますし、顔も覚えてもらえる。我々大人も誰々の子どもだと解るといふ繋がりができる自治会もあれば希薄のところもある。自治会の加入率も下がっておりまして、8割を切っております。2割の方が自治会にも加入していない。地域との交流も、接点がないわけです。寒川は災害も少なく、いいことなのですが、それ故に隣の援助が無くても、行</p>

政が何かをやらなくても自立できてしまう。ある意味恵まれた環境にあることも人間関係の希薄、子どもの行動にしても多少なりとも影響が出てきていると思います。心の安まる場、地域との繋がり確保というお話もありました。昔の話をさせていただきますと、公共の遊び場などありませんでした。自分たちで遊び場を作るわけです。今の子は外に出て遊び場を作らない。公園とか公の施設、センターとか図書館などあるものに行く。だから、子ども達も子どもらしさがないというか、昔は遊びを考えて作ってそれが遊びでしたが、今の子どもは遊ぶものが一杯ある、選びきれないほどありますから、その中で選択しているということもあると思いますが、ものに恵まれている状況の中で、子どもが自ら考えること、考える機会が少なくなっているとの思いがあります。充足されて幸せだと思う反面、子どもらしさが出せない、ある意味可哀想な思いも私自身はします。皆様他の委員のご意見を伺いながら、率直な感情、考えをもしお感じになられたらご発言をお願いしたいと思います。

寺本委員

今のお話を聞いて思うことですが、地域で子どもと関わるということで、具体的にどうすればいいかというのは希薄化している中で難しい問題だと思いますが、可能性として寒川町は色々プラスになる要素があると思います。例えば、先ほど一之宮で子ども会が立ち上がるといううれしい報告がありました。ないないといいながら、子ども会そのものが無いところもあります、あるところにはある。比率から言いますと他の地域よりあると思っております。いかに地域社会が取り込んで育てていくかという視点を持つことが大事になってくると。時代に逆行しているからといって全部切り捨てるということではなく、あるものをいかに少しずつでも育てていくかという視点に立って私たちは考えていかなければならない。あと子ども会以外ですと大曲地区におこじゅの会があり、シニアの方、ジュニアの方、一緒に会の方々と楽しむ事を計画して実際に行われております。それから、夏休みに前半と後半でラジオ体操を行うようですが、ちょっとした活動の中にいろいろな関わりがあるような気がしますので、それを各地区で広めていこうということ、自治会、関係する方々が連携して考えいくことが問われているのかなと感想を持ちました。

会長

今お話がありましたが、まるっきり活動していないということではありません。各自治会で積極的に行っているところと、大曲の活動など、また小谷も子どもが増えている状況もありまして、活発な部分もあります。行政側とすれば、そういう状況を、地区の動きを多くの町民に知ってもらう、情報の提供が行政の役割になってくると思います。先ほどお話しもありましたが、シニア世代、毎日は無理、まる1日は時間を使うのは難しい、で

	<p>も半日、2時間でも時間が使える、曜日が固定されなければ、週何回か参加できる、ある意味生きがい就労的な部分、自分が出来る地域活動、対象者が子どもかもしれませんし、高齢者かもしれません。自分が出来る社会参加、こういったことを生きがい就労ということで今月の広報にもコメントを入れておりますが、そういう時間の使い方、社会参加の在り方というものを、対子ども、対高齢者にサポーターとして何らかの動きが出来るのではないかと思いがしております。皆様はご理解していると思いますが、何でも行政がやるといったことは、とうの昔に終わっていることで、いかに地域にいる人たちが、それぞれ出来る範囲で力を出し合って、より良く地域形成したいという思いがあります。皆様は、それぞれそういった活動をしていると思います。非常に大きな課題、今始まったのではなく、ある意味すでに言い尽くされている部分、それに対する動きは最初は小さいですが、それを継続しながら進めていく、あるいは、出来るところから始めていく、自分もそうですが、出来ないことはいくら行っても仕方が無い、何が出来るのか、これからそれを取り上げて、それを町民にお話しして参加を促す。ハードルは低くした方がいいし、参加しやすい状況作り、それが結果的には色々成果が出てくると思いますが、あまり成果にこだわらずに、一人でも多くの方が参加していただける状況作りが出来たらと、青少年だけではないですが、課題に対する1つの回答になるような気がします。</p> <p>他に、ご意見、ご感想などあればお伺いしたいしたいと思います。</p>
下里委員	<p>あまりいい質問ではありませんが、スポーツ関係の新聞を見ますと、寒川の中学校、高校が上位に入らない。もう少し寒川の知名度を上げるためにも、もう少しスポーツを盛んにしてほしい。上位にいつも入るような方法はとれないものかといつも思っています。そのあたりはどうなのでしょう。</p>
会長	<p>2020年に東京オリンピックが予定されておりますが、それに向けてという部分で各団体、学校ではなく、子ども達もそれぞれの趣味、スポーツの中で、得意の分野、技術を磨いて、出来れば県代表、あるいは国の選手として強化選手となるような子ども達も育てていただきたいし、その土台を作りますのが学校のクラブ活動だと思いますが、今寒川でも野球の部分では、リトル、シニアからプロ野球の選手になっている方も数多くいます。皆様が存じないだけで、寒川から今この球団にこういった選手が居ると、PRではなく、地元から出た、寒川からどういう方が輩出されているか知ること大事ではないかと思えます。また、そういった情報も行政では把握できない部分もございます。おかげさまで、田端スポーツ公園で、</p>

	<p>本来は軟式野球しか出来ませんが、守備練習やシートノックの時に、安全確保の上、硬式野球、リトルなどはかなりの制約を受けた中で、使用を認めております。決して寒川から誰も出ていないということではなく、そういった環境を作る事も大事だと思っております。いろいろな種目でも、広報などでも紹介している場もありますが、もっと多くの方に有名というか、スポーツだけではなく、様々な部分で能力の高い方の発掘も大事だし、お知らせすることも大事だと思っております。近隣自治体の組長さんは、今度オリンピックに出る、世界大会に出る方が役所に来てお話しをされている記事がございますが、相手がないから出れない、誰かいればそんなお話しをしてもいいと常々思っておりますが、見るたびに大きな自治体はいいのではなく、小さな自治体からも出ておりますし、現に女子サッカーでも、近隣の自治体からも出ておりますので、そういう方が町内から出れるような、そういった方が出るとような状況も、ある意味青少年取り巻く環境にはプラス要因になろうかと思っておりますので、関係する団体等に出来る支援はしてまいりたいと思っております。</p> <p>いろいろと情報交換もしていただきましたが、時間の限りもございますので、ご意見はここまでにさせていただきたいと思っております。今ありました報告につきましても、各団体にお持ち帰りなっただけ、今後の活動の参考にしていただければと思っております。</p> <p>議題（２）報告事項に移りたいと思っております。事務局よりお願いします。</p>
事務局	資料3にて説明
会長	ご質問等ありますでしょうか。
	質疑無し
会長	ご質問等内容なので、（３）その他について、委員の皆様から何かありますでしょうか。
	なし
会長	事務局からお願いします。
事務局	参考資料スキップの説明 悩みを抱えている子ども・若者相談会説明
会長	相談はどのような形で行われるのか。具体的に。

<p>事務局</p> <p>会長</p>	<p>県青少年センターの事業となりまして、予約制となっております。青少年センターへ連絡していただき、時間をずらして予約を受ける形となっております。会場は町民センター展示室2となっております、3つの部屋に仕切ります。県より、相談員を派遣していただき、予約が多い場合には、相談員を増やして対応すると聞いております。他の方と時間がダブらないようにすると聞いております。</p> <p>ご質問等ありますでしょうか。 無いようなので以上といたします。議題の方は、以上で終了いたしました。議長の任を下ろさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>閉会の言葉 副会長</p>
<p>資 料</p>	<p>① 地方青少年問題協議会法（資料1） ② 寒川町青少年問題協議会条例及び施行規則（資料2） ③ 平成27年度「青少年の非行・被害防止全国強調月間」（資料3） ④ 子どものための情報誌 「すきっぷ」 No.61～62（参考資料） 悩みを抱えている子ども・若者相談会チラシ（参考資料）</p>
<p>議事録承認委員及び 議事録確定年月日</p>	<p>・ 大矢かおる ・ 坂元誠一</p> <p>(平成28年 3月24日確定)</p>